

第1回 松山市中心市賑わい再生社会実験専門部会 議事要旨

- 日 時：2014年8月20日（水） 15:00～17:00
- 場 所：松山銀天街第一商店街振興組合2階
- 出席者：14名

【事務局】

（挨拶、配布資料の確認、委員紹介）

（1）社会実験の基本的考え方

【事務局】

（社会実験の基本的な考え方について説明 資料1_P.1～3）

【委員A】

（松山アーバンデザインセンターについて説明）

【事務局】

（社会実験の基本的な考え方）

（2）社会実験の実施概要

【事務局】

（社会実験の概要について説明 資料1_P.4～7）

（現地へ移動、広場・施設の見学、設計に関して説明）

【事務局】

（社会実験の概要について説明 資料1_p.8～16）

〔質疑応答〕

【委員B】

- ・ひろばの使い方、ルール の 作り方、効果の 図り方等についてご意見を伺いたい。

【委員C】

- ・まず、本社会実験は、広場、施設、UDCMの様々なプロジェクトのうち、どれを示すのか。
- ・また、この部会の役割について確認したい。

【事務局】

- ・本社会実験は、広場と建物の中での活動を一体的に示す。
- ・部会は、有識者、地元、経済界などの立場から、WSでの意見を踏まえた社会実験の進め方等について、議論いただく機関であり、ルールや効果検証の方法などを具体的に本部会で決めたい。

【委員D】

- ・事務局の説明を補足して、社会実験の効果やアーバンデザインセンターとしての活動の成果は、アーバンデザインセンターに常駐するスタッフで行うことで認識している。

【委員E】

- ・ひろば・施設を管理する主体を確認したい。

【事務局】

- ・主体は、松山市である。

【委員F】

- ・他都市では、民間や大学などの管理運営の事例があるが、今後そのような展開を市の内部では検討しているか。

【事務局】

- ・現在は、社会実験の委託先として、復建調査設計、まちづくり松山に管理をお願いしている。

【委員G】

- ・現在は、復建・まちづくり松山が委託管理し、場合によっては、今後、別の主体になる可能性もあるが、そこに松山アーバンデザインセンターが常駐して、様々なプログラムをやっていくということで理解した。

【委員H】

- ・イベント等とあるが、これは、外部の方や商店街などがやるイベントとして事例を示しているのか、それとも松山市や委託先の復建・まちづくり松山がこういうイベントでやってくださいという提案なのか確認したい。

【委員I】

- ・立ち上げ期なので、その枠組みはまだ決まってない。
- ・イベントの取り組み方については、WSをはじめ、本部会で議論しながら検討したい。

【委員J】

- ・この場所が外部の方や商店街などの内部の方にとって、どのような場所になるべきか、理念についても本部会で話していけばよいのか。

【委員K】

- ・この場で議論できればよい。

【事務局】

- ・補足として、社会実験の期間が1年半もあるため、当初のプログラムをずっと継続するのではなく、専門部会での意見等を踏まえ、新たな活動も考えられればと思う。

【委員L】

- ・大きなことが同時並行に進んでいる印象を受けた。
- ・市民の立場では、「まず知る」、「どう使うか理解する」などのステップがある。
- ・当初から盛り込みすぎると、どうしていいのわからない状態が生まれる懸念がある。

【委員M】

- ・プログラムの詰め込み方等のバランスが重要。
- ・まずは広場ができたことが市民にとっては重要なことで、盛り込みすぎること、そこから生まれる使い方などの発想の機会を掴む可能性もあるので、ご指摘どおりだと感じた。

【委員N】

- ・市民の方が自発的に使い方を理解していくことが重要だと思うが、一方で、当初は具体的な例示も必要なためバランスが重要だと考える。

【委員O】

- ・利用方法の想定としては、小さい子供、子育て世代の母親が中心という認識でよいか。
- ・模型・資料中の事例を見る限りでは、そのような印象を受ける。
- ・社会実験の基本構想・ターゲットとの兼ね合いをどう付けるのかが、気になる。
- ・その他、WSではどのような意見があったのか教えていただきたい。

【事務局】

- ・想定するターゲットは幅広い世代である。
- ・昨年度のWSでは、広場の設えは、必要最小限にし、使う人が考えたり、持ち込んだりするといった意見が多かった。
- ・その後、先月（7月）のWSでの意見を踏まえ、本日提示したシンプルな広場となっている。
- ・使い方に関する意見としては、マルシェやイベントなどの意見の他、憩いの空間に対する意見があり、丘などを設計に盛り込んだ。
- ・ただし、先月のWSでは丘はいらないのでは。等の様々な意見が寄せられた。

【委員P】

- ・高齢者が芝に座るのは難しい。
- ・ベンチを置くなら、イベントに配慮し、移動式にするなどの必要があるように感じた。
- ・その他、ユニバーサルデザインへの配慮等は考えているのか。

【事務局】

- ・車いすの方も含め、道路側からフラットな進入が可能な設計を考えている。
- ・WS では、自由に使えるベンチを作っていくなどの取組みを考えている。

【委員Q】

- ・空間スペースが狭いと感じた。
- ・広場と施設間の道路を有効に使えると良いが、通行止めは可能か。
- ・また、広場から道路へ子供が飛び出す際の安全性には配慮しているのか。
- ・今後の進め方として、WS と専門部会との意見のキャッチボールなどの関係を確認したい。

【事務局】

- ・通行止めについては、地元や関係機関を通じて、検討の可能性を考えている。
- ・県警にも本施設の整備を周知しており、今後、通行止めなどの議題が挙げられるようであれば、県警にも部会に入ってもらい議論する必要がある。
- ・WS と専門部会については、お互い間での意見をキャッチボールしていければと思う。

【委員R】

- ・当該道路は、かなりの交通量があり、周辺はテナントも多く、町内会等の地元の意見もあるため、通行止めについては、慎重に議論していただきたい。

【事務局】

- ・ご意見も踏まえ、本部会場で慎重に議論していきたい。
- ・本部会では、地元の方に委員として参加していただいているため、当然地元のご意見も丁寧に伺えればと思う。

【委員S】

- ・広場・施設の整備は、町内にとっては、既に決定事項として報告を受けたのみで、本日の説明では、話が進みすぎている印象を受けた。
- ・この施設整備の必要性が把握できていない。
- ・町内では、住民の流出が問題化する中で、市はどのように考えているのか。
- ・また、この施設の責任者は誰なのか。緊急時の連絡先を一本化していただきたい。
- ・予算はいくらなのか。
- ・社会実験による通行量増加の将来予測値はあるか。

【事務局】

- ・街なかの空洞化、郊外へのスプロール化は、市としても課題として認識している。
- ・コンパクトシティを目指し、街なか居住を図っていきたい。

【委員T】

- ・コンパクトシティとは、マンションのような高層住宅なのか、平屋での居住なのか、どのような考えがあるのか。

【事務局】

- ・様々な方法が考えられると思うが、現実として、高層のマンションの建設が進んでいるという実態がある。
- ・予算については、広場整備で約500万円。
- ・通行量の予測は行っていない。今後、通行量の変化を検証していく。

【事務局】

- ・町内への説明が遅かったことについては、申し訳ない。
- ・今後も町内会の意向も尊重して、進めていきたい。
- ・責任者等の連絡体制については、一本化してお知らせする。

【委員U】

- ・地元として広場ができることは、喜ばしい。
- ・この3丁目には、町内会が5つあるが、そこへの説明不足を感じる。
- ・責任問題については、苦情などの問い合わせが商店街組合にくる可能性がある。
- ・目立つ施設なので、責任問題等については、きちんとルールが必要。
- ・また、治安の問題も懸念されるため、夜間の管理について確認したい。WSでの検討も結構だが、市としても治安の問題等も十分考えておくべきである。

【事務局】

- ・説明不足については、真摯に受け止め、社会実験の開始までにきちんと説明に伺いたい。
- ・ルールについては、次回の専門部会までに、夜間の件も含め素案を提示し、議論したい。
- ・責任者は松山市であり、連絡体制もきちんとした形でお示しする。

【委員V】

- ・監視カメラは必要。
- ・子供の安全面への配慮には、フェンス等が必要ではないか。
- ・壁利用については、既存の建物の壁を利用するのではなく、新たに壁を立てる必要がある。

【事務局】

- ・監視カメラについては、次回の部会までに設置できる方向で検討し、ご報告したい。
- ・安全面でのフェンス等に精査し、次回までにはご報告したい。
- ・壁利用については、周辺の持ち主の方、地元の方のご意見もあるため、意見を伺いながら慎重に検討していきたい。

【委員W】

- ・本日、管理に関しては、地元意向等を含めた検討や説明の質が薄かったように感じる。
- ・多様な意見を頂戴したので、管理方法等については、きちんとした形で対応していけるのではないかと思う。

【委員X】

- ・現地や周辺状況を踏まえると、収益・集客を見込める大規模なイベントは難しい。
- ・憩いの場として利用する方が、商店街を周遊し、街なかでの滞在時間の増加に繋がっていければと思う。
- ・先ほどの安全面の問題や夜間の営業時間、音響などの問題、食べ物等を出すのであれば、排水の問題などについてももう少し議論すべきことがある。

【委員Y】

- ・ルールについては、具体的に決めていける議論ができています。
- ・本日の意見を踏まえ、次回の部会までに、ルールを提示できていけるように思う。

【委員Z】

- ・この場所に何故、憩いの場を作るのかという、根本的なことを考えた方が、商店街と市民を繋げられるのではないかと。
- ・ターゲットは幅広いが、広場は子供の利用が中心となることが想定されるため、次に、施設をどのように活用するのなどもWSで議論してもらえればと思う。
- ・また、WSでの議論の結果を詳しく専門部会でも紹介いただければ、お互いの理解が進む。

【委員AA】

- ・本日夜からのWSにおいてもルール・使い方・管理などについて議論をする予定である。
- ・次回の専門部会では、それらの意見を踏まえ、どのような使い方をするか、具体的な案をもって、事前に地元商店街の方へも相談し、部会で議論を深めたい。

【委員BA】

- ・子供利用にしては、丘の傾斜がきついのかと感じた。
- ・図面で気になったのは、菜園スペースが確保されているがその目的である。
- ・例えば、ここで作った野菜をブランド化するなどのテーマがあれば良いが、単にスペースがあるので、菜園を作ったのではもったいない気がするため、もう少し検討が必要。
- ・この場所のポテンシャルを考えた場合、商店街や街なかへ人を呼び込むイベントが重要。
- ・イベントは子供限定とするのか、たまたま来た人が誰でも参加できるのか、様々な形態が考えられる。
- ・次にアーバンデザインセンターができるということで、人のポテンシャルを考えた場合、学生たちは、AMANDA COFFEEで勉強している姿があり、街なかに場所が無いので、そこで勉強しているとの話を聞く。

- ・アーバンデザインセンターで勉強できるようにすれば、学生がこの施設を使って、浸透し、繋がりが生まれれば、将来、管理する側として動いてもらえる展開も期待できる。
- ・広報については、あの場所がインフォメーション的な場所となれば、観光客にもこの場所を紹介できるし、まちのコンシェルジュ的な人がいてもいいのかと思う。

【委員CA】

- ・イベント先行で物事を考えるのではなく、まずは、場所を知ってもらい、来てもらい、徐々に浸透していくことが重要だという意見をいただいた。

【委員DA】

- ・近隣の地権者からは火の気があると怖いとの意見を伺っている。
- ・そのため、監視カメラ等の管理は重要との意見もあった。
- ・施設の1階の使い方や利用料金をいくらにするのかなどによっては、広場の利用にも影響するのではないか。

【委員EA】

- ・ターゲットは大学生に絞ってもよいのではないかと思う。
- ・大学生から市民へ利用が広がることも考えられる。
- ・施設の規模を考えると大規模なことはできないが、一定の制約がある中で活動を企画できる人材育成にもつながる。
- ・実験後に、このような施設が街なかに増えていくことを検証することも重要。
- ・さらには、場所が増えることについて、商店街や市民はどう感じるかなどの意識変化を検証することも重要。
- ・具体的には、市民に浸透したのか、新たなまちづくりの体制ができたのか、意識が変わったのか、人材が育ったのかなどの視点も考えられる。
- ・ルールについては、権利ばかりでなく、義務などをきちんと決めるべき。

【委員FA】

- ・10月から常駐するが、今後とも地元の方からご指導をいただきたい。

【委員GA】

- ・WSでは、ロマンや夢のある話を積極的に議論いただいているが、本日は、治安・管理などの現実的なご意見をいただき、それらを踏まえた検討をしていければと思う。
- ・学生の中には、「まちづくり」といった大きな話ではなくても、街をよくする活動に参加したいという学生は十分いるので、この施設を拠点にまちとの関わりを図っていきたい。

(3) 今後のスケジュール

【事務局】

(今後のスケジュールについて説明 資料 1_P. 17～18)

【委員HA】

- ・本日は地元の方からの活発な意見を伺えることができた。
- ・地元の方への周知不足や一緒にルールを考えていくための議論を引き続きよろしくお願ひしたい。

【事務局】

(閉会挨拶)

以上